

症 例

除草剤（グラモキソン[®]）による眼障害の2例

小林 司¹⁾ 武田 さち江¹⁾

はじめに

グラモキソン[®]は、パラコート[®]を主成分とする除草剤であるが、経口摂取された場合には、人体に対して強力な毒性を有している。散布中の中毒は少ないが、眼科的には、以前から原液を希釈する際、眼にグラモキソン[®]が飛入するという事故などの報告がなされている。

当科では昨年1年間に2例の特徴的な経過をしめしたグラモキソン[®]による眼障害例を経験した。この症例を報告し、改めて眼障害への注意を喚起したい。

症 例

①49才 女性 主訴：（右）眼痛

現病歴：昭和61年7月21日午前10時頃、グラモキソン[®]原液を希釈中に右眼に液が飛入した。7月22日午後右眼の充血が出現したため近医受診し、治療を受けた。7月23日からは、右眼に痛みが出現し、徐々に増悪するため、7月25日当科受診。

初診時所見：右眼角膜の鼻下側部に大きな角膜ヒランがあり、角膜周囲充血も強かった。（写真①）

治療経過：局所に抗生物質の眼軟膏及びFAD眼軟膏を1日3回使用し、副腎皮質ホルモン剤内服を併用した。4日後には、ヒランは消失した。角膜周囲の充血も徐々に軽減し、12日後には充血も消失し、後遺症もなく治癒した。

②47才 男性 主訴：1）（両）眼痛 2）顔面、背部の発赤及び疼痛

現病歴：昭和61年7月29日グラモキソン[®]を散布するため、噴霧器を背負おうとして、背部、顔面に希釈液をあげた。8月1日夜間から顔面に痛みが出現す。8月2日朝には、両眼痛が出現したため、近医受診す。8月4日痛みが増悪してくるため当科受診。

初診時所見：顔面及び左肩、上腕、前腕の皮膚に発赤があった。両眼角膜中央部に大きな潰瘍あった。（写真②③）

治療経過：入院の上、抗生物質・消炎剤を投与し、ステロイド剤及び抗生物質の点眼を行った。皮膚には副腎皮質ホルモン軟膏を貼布した。4日後には角膜潰瘍はなくなり、軽度の表層角膜炎のみとなった。皮膚の発赤も消失した。

考 察

阿部らは、グラモキソン[®]による眼障害例は、つぎのような特徴を有していると述べている¹⁾。

- ①眼に入ってから、発症までの期間が長い。
- ②濃度が高い場合、角膜潰瘍、膜状分泌物がみられる。
- ③角膜障害は遷延する。
- ④疼痛軽減にはステロイドが有効である。

今回の症例では、症例1は受傷翌日に近医受診、4日後に当科受診であり、症例2は、受傷3日後に近医受診、6日後に当科受診であった。他の化学薬品等による眼障害に比して、自覚症状の発現がおそく、しかも治療に抵抗して徐々に増悪してくるという特徴がみられた。

また幸にして今回の2症例では、角膜障害は遷延化せず数日の治療で治癒したが、治癒まで1ヶ月以上を要した報告もある¹³⁾¹⁴⁾。

副腎皮質ホルモン剤は創傷治療を遅延させ又感染発誘発の危険性もあり、角膜潰瘍例への投与は慎重でなくてはならない。しかし、グラモキソン[®]による眼障害例においては、その投与が、疼痛の軽減に有効であるといわれている¹⁾。今回の2症例では疼痛の軽減に有効であったばかりでなく、角膜障害の遷延化防止にも有効であるように思われた。

今回の症例でも又過去に報告された症例でも¹¹⁻¹³⁾、グラモキソン[®]による眼障害例では、受傷直後の自覚

1) 中央総合病院 眼科

症状が比較的軽い場合が多く、初期の治療が十分には行われていないようである。たとえ自覚症状が軽微であっても早期に専門医による適切な治療をうけることが肝要であり、角膜障害の遷延化防止の点からも大切であると思われる。

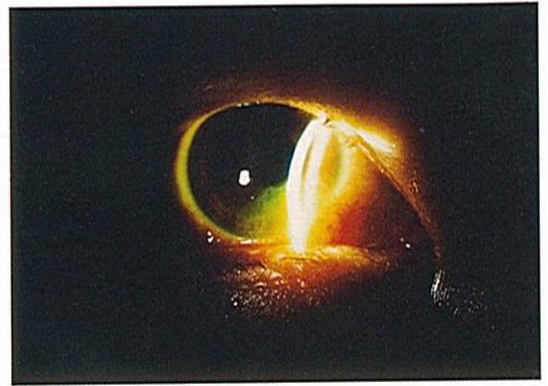
また、眼障害の予防のため、薬剤散布時はもちろんのこと、原液希釈時からの保護眼鏡の使用が大切なことと思われる。

結 語

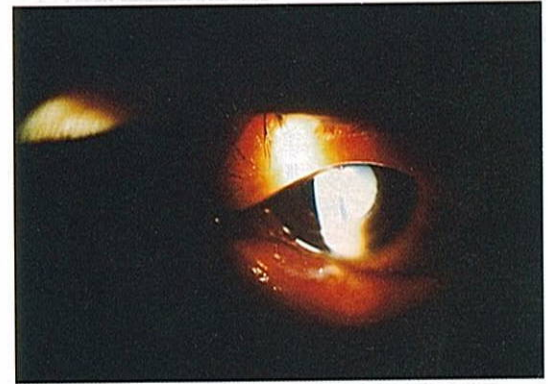
- ①パラコートによる典型的眼障害例の2例を報告した。
- ②パラコートによる眼障害例では、自覚症状の発現がおくれるため、治療開始がおそくなりがちであり、早期からの適切な治療が重要であると思われた。
- ③眼障害予防のためには、パラコート散布時のみならず、原液希釈時からの保護眼鏡の使用が必要と思われた。

文 献

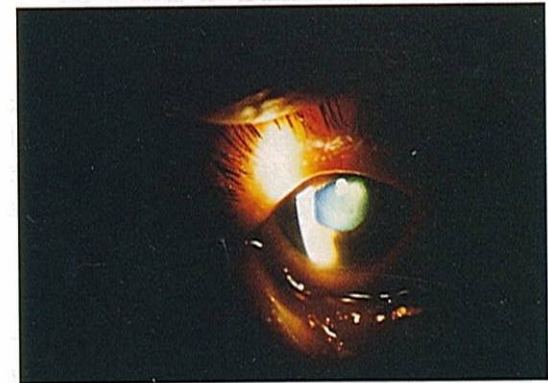
- 1) 阿部真知子ほか：グラモキソン[®]による眼障害、あたらしい眼科、3：753～755、1986
- 2) 藤田邦彦：除草剤グラモキソン (Paraquat) による角結膜のChemical burnの1例、臨床眼科、27：1399～1401、1973.
- 3) 唐井一郎ほか：除草剤Paraquatによる涙道閉鎖の一例、産業医学、23：552～553、1981.
- 4) 太根節直ほか：パラコート (Paraquat) による眼障害の症例、眼科臨床医報、68：846～849、1974.
- 5) 三国郁夫ほか：除草剤グラモキソンによる眼部腐蝕の1例について、眼科臨床医報、70：395～398、1976.
- 6) 大石省三ほか：グラモキソン (Paraquat) による眼障害、日本災害医学会雑誌、24：187～189、1976.
- 7) 渡辺郁緒ほか：除草剤Gramoxoneによる眼障害の3例について、眼科臨床医報、73：1244～1246、1979.
- 8) 岡和田紀昭ほか：農薬による眼障害の2例、日本農村医学会雑誌、29：550～551、1980.



写真① 色素で淡緑色に染色されている部分が、角膜ビランの部位



写真② 右 眼



写真③ 左 眼